

愛・マテリアル博 2007 マテリアル・アート展

知能生産システム工学科マテリアル系 4年 今田 慧 担当教員：横井 裕之

1. はじめに

マテリアル工学系学生会はふだん意識されにくい「材料・素材」のおもしろさを一般の人や高校生、他学科の学生たちに知ってもらうために、「愛・マテリアル博」と銘打って毎年趣向を変えた展示を工学部探検で行っている。材料（マテリアル）には、結晶形や組織構造に芸術的とも言える個性的な「顔」があり、それがその材料のユニークな特性を生んでいる。マテリアル工学科の学生は、学生実験や卒業研究においてそのような顔に出会い、さらにマテリアルへの興味を深めている。このような出会いを一般の方々にも体験していただきたいという思いから、今年度は材料科学実験や研究室での研究を通じて出会った材料の表情の写真を集めた写真展を企画した。

2. 実施方法

熊粋祭と同時開催される夢科学探検（平成19年11月3日）において、「マテリアル・アート展」と題してA1版6点とA3版12点の作品を展示した。作品は、結晶が偶然ユニークな形に成長した姿や原子配列のズレを解明した電子顕微鏡写真を始めとして、いずれも日頃の実験・研究から見いだしたものである。A3サイズの作品については市販の額縁に、作品に合わせたデザインを施した（図1）。

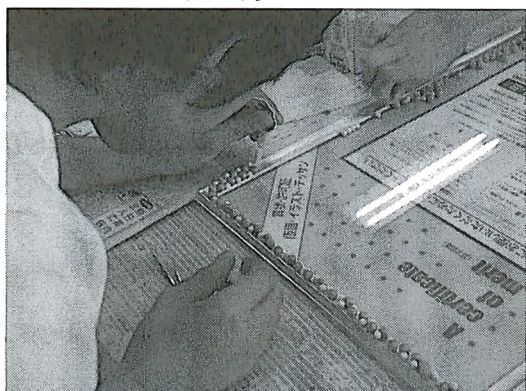


図1 金属組織写真展示用の額縁にBB弾を利用して原子配置のイメージで飾り付け

3. 成果報告

当日は100余名の方の来場があり（図2）、A1サイズとA3サイズの各部門でベストフォト賞を選んでいた（図3、4）。アンケートには、「マテリアルなのに本当にアートみたいで面白い。」「金属は生きているの?」「すごい 宝物のよう。」「原子がずれている!!すごい。」「やっている人たちが楽しそうでい

い。」といった感想をいただいて、多くの方々にマテリアル・アートを楽しんでいただけたことがわかった。たいへんよい反響が得られたので、夢科学探検後も工学部研究棟Iの1階ロビーで作品展示を継続している。

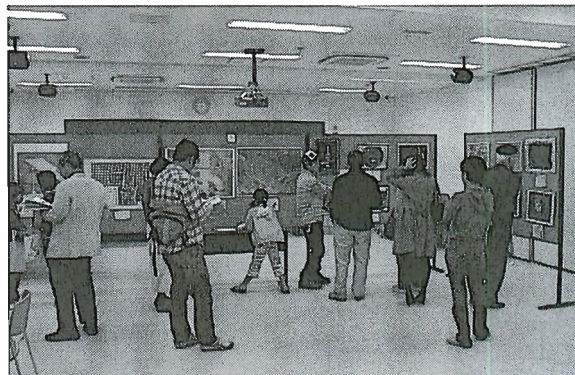


図2 夢科学探検での展示風景

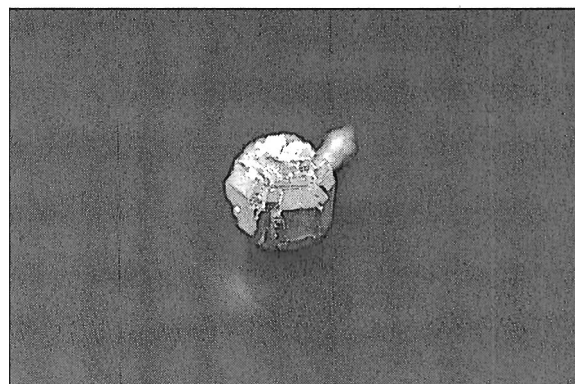


図3 A1サイズ部門ベストフォト賞受賞作品
「マグネシウムのキノコ」

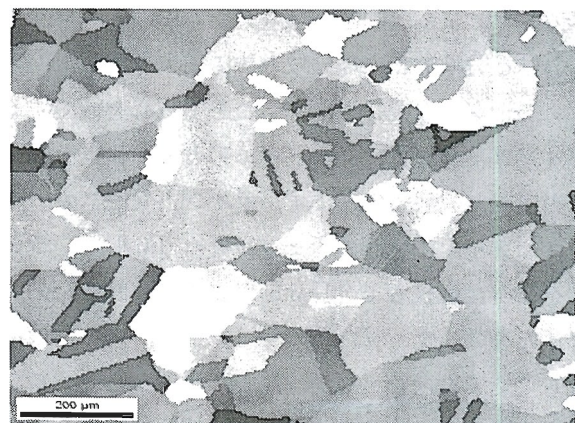


図4 A3サイズ部門ベストフォト賞受賞作品
「ピカソ in マテリアル」